



テストづくり

June 19, 2015 No3

八重山教育事務所

6月は英語科教師にとっては、英語関連行事が続きいつも以上に大変ハードな月になっていることと思います。本当にお疲れ様です。学期末に向かいますます忙しくなるかと思いますが、健康第一です！無理しないで下さいね。さて今月のテーマは「テスト作りのヒント」です。



引用文献『英語テストづくり&指導完全ガイドブック』 2014 上山晋平 編著 明治図書

☆生徒に力をつけるポイント☆

○目標を定める⇒○目標をテストに置き換え⇒○授業で鍛える

1時間ごとの授業設計(内容)を考えるだけでなく、最終的にどこまで力を引き上げたいか(この単元では、この学期では、この学年では、3年間では・・・)先に考えておくことです。ゴール地点を先に決めておいてから、そこに到達するための毎時間の授業プランを考えるということです。

☆テストづくりの基礎・基本☆

1 よいテストが備える5原則

①妥当性(validity)

測定したい技能や知識を、そのテストが「どれだけ正確に」測定しているか。

②信頼性(reliability)

繰り返し測定してもテスト結果が「安定」(得点の一貫性)しているか。

③実用性(practicality)

テストのやりやすさ(作成・実施・採点に手間がかかりすぎない)

④波及効果(washback)

テストが「指導や学習に及ぼす影響」

⑤真正性(authenticity)

実際に母語話者が使用する活動やテキストに「いかに近いか」。

※これら5つすべてを満たすテストは存在しませんが、何を重視するかは大切です。

2 テストづくりの改善点ポイント

①テストは「生徒が勉強して英語力を伸ばすため」にあると考えよう。

②生徒の学習意欲が高まるテスト準備期間を十分に活用しよう。

・出題範囲だけでなく、出題形式やテスト例、効果的な学習法なども具体的に紹介すると意欲的に学習する生徒が増える。

③テストには入試や諸調査等の内容も取り入れ受験に対応できる力も育てる。そのためには授業改善が必要。

④テストはテスト前の取組みと後の取組みが大切。テスト前後の取組みを通して生徒の英語力を「伸長」し「診断」し「評価」する。弱点をみつけたら治療する。

授業では本文中に重要語句が出た時に、文脈で確認したり、音読練習時に目的をもって練習させる、要約文を書かせるなど指導の工夫が考えられる。

語や語句等に関する問題は文脈の中で問う

下の文脈における次の日本語にあたる英単語を書きなさい。

※空欄の前後をよく読んで適切な形で書きましょう。

The other day, I found that the chain on my bike was (①こわれた).

物語のあらすじを正確に読み取らせる問題

- ・【要約文並べ替え】ア～オの英文を本文の流れに合うように並べ替え記号で答えましょう。
- ・【英文戻し】次の本文の空欄①～③に入る英文を下から選び記号で答えましょう。
- ・【要約文完成】空欄に入る語句を本文中から選び書きましょう。